

# 京都市立大枝小学校 学校教育方針

子どもが「主役」、子どもを「主役」に！

## 1 学校教育目標

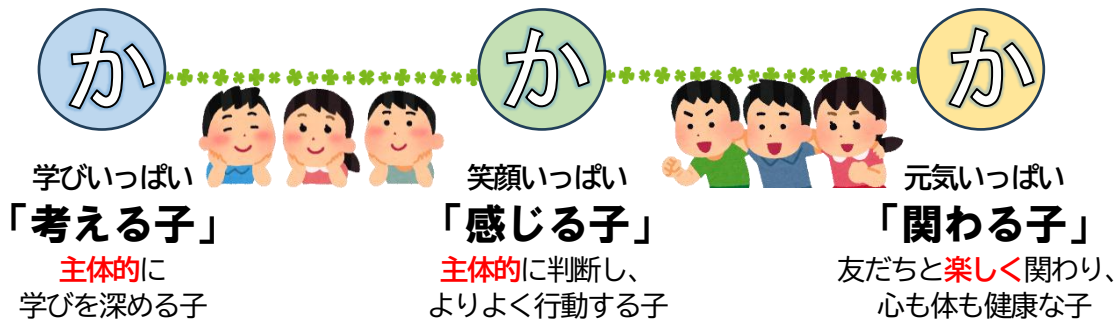
### 過去から現在そして未来へ続く社会を生き抜く力の育成

本校の児童につけたい資質・能力

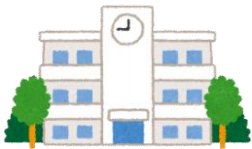
- 『自ら学ぶ力』…進んで考え、学びを深める力
- 『自己決定力』…自ら判断し、よりよく行動する力
- 『協働する力』…自他を大切にし、協働する力



## 2 目指す子ども像（3つの「か」）



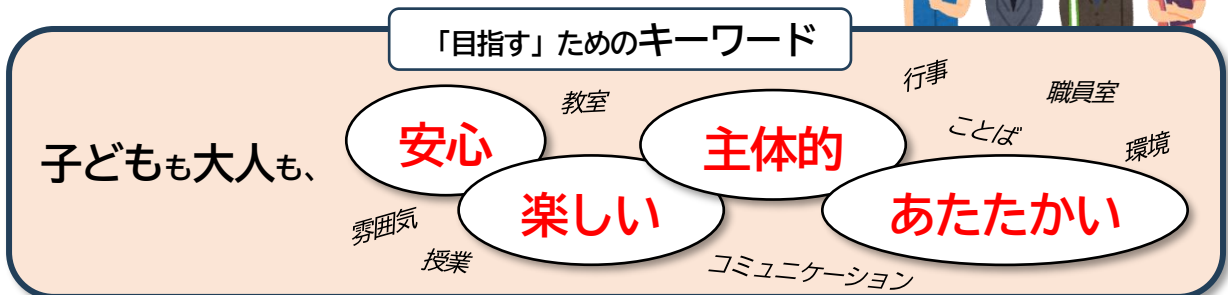
## 3 目指す学校の姿



- 主体的な学びに向かう**楽しい**学校（自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考える）
- **安心**感があふれる**あたたかい**学校（思いやりやぬくもりにあふれた言葉や行動）
- 美しく整い、信頼される学校（学習環境が整い、家庭、地域と共に高め合う）

## 4 目指す教職員の姿

- 教育改革を自ら推進する教職員
  - ・教育のプロとして理想の教育像を掲げ、使命感と責任感をもって教育を進める教職員
  - ・つけたい資質・能力の育成を意識し、子どもが自ら学ぶ**主体的**な教育活動を創造する教職員
- 情感豊かな教職員
  - ・人権感覚を磨き、人権尊重や命の尊厳を意識する教職員
  - ・子どもの背景にまで思いを巡らせ寄り添い、厳しくも**あたたかい**指導を実践する教職員
- 心身ともに健康な教職員
  - ・働きがいや**楽しさ**を感じ、チームで向かう教職員
  - ・高い同僚性を持ち、**安心**で**あたたかい**職場をつくろうとする教職員



## 5 学校教育目標達成のために

### (1) つけたい資質・能力の育成

子どもが「主役」、子どもを「主役」に！

#### ①主要6部会・委員会を中心とした取組の推進

委員会名	必須メンバー	主な取組	
研究部 (学力向上部)	◎研究主任 ○学力向上主任	*子どもが <b>主体的</b> に学ぶ授業の構築、授業力向上を目指し、校内研究を進める *学力向上を目指し、帯時間や家庭学習の在り方の考察、学力テスト等の分析を進める	全教員が所属 校内研修日を中心に 定期的開催
指導部会 見守る	生徒指導部 ◎生徒指導主任 ○特活主任 ○教育相談主任	*支援を要する児童の情報共有と <b>あたたかい</b> 支援の在り方の検討 *発達支持的生徒指導の取組の検討	全教員がどちらかに所属 月1回定例会 (原則第2火曜日)
	総合育成 支援教育部 ◎総育主任 ○( ) L通担当	*支援を要する児童の情報共有と <b>あたたかい</b> 支援の在り方の検討 *「個別の指導計画」作成児童の検討	
特別活動部	◎特活主任 ○生指主任	*子どもが <b>楽しく主体的</b> に動く特別活動(学校行事や児童会行事、学級会活動)の充実	必要に応じて開催
人権教育委員会	◎人権教育主任 同和主任 ジェンダー主任 外教主任 総育主任	*子どもの豊かな心の成長と <b>安心</b> できる信頼関係の構築を目指す	
健康教育委員会	◎保健主事 養護教諭 安全主任 体育主任 給食主任 栄養教諭	*子どもの心身の <b>安心</b> ・安全・健康を実現する学校づくりを目指す	

○ つけたい資質・能力をカリキュラムマネジメントの中核に位置付け、教科横断的な視点から教育活動を推進し、子どもの姿や変容をもとにしたPDC Aサイクルに則った検証や分析を行う

#### ②基盤となる言語表現力の育成

- 対話的な学習場面を授業の中に意図的に設定
- 「対話」のルールを明確にし、徹底
- 書く力の育成
- 言語表現力を支え広げる読書環境の整備



### (2) 学力向上・授業力向上

子どもが「主役」、  
子どもを「主役」に！

#### ①授業改善

##### 【目指す授業】

- 子どもが**主体的**・**対話的**に学び、深い学びを得る授業
- 探究する**楽しさ**を感じられる授業
- 「教師が教える」のではなく、「子ども自らが**主体的**に学ぶ」授業
- すべての児童が「わかる・できる」**楽しい**授業

##### 【授業改善のために】

- つけたい資質・能力を軸とし、全ての教科に波及する校内研究の推進【研究部】
- 個や能力に応じた指導・支援の徹底【見守る指導部会(生指・総育)・人権教育委員会】
- ICTの活用【GIGA推進部】
- 協力指導体制の充実(高学年チーム担任制 教科担当制 専科 交換道徳 授業支援 等)

##### 【授業力の向上】

- 授業を行う … 校内研究を核に、児童自らが**主体的**に学ぶ**楽しい**授業の構築
- // 見る … 校内研究 校内OJT 若手研修 他校の研究発表会

- // 学ぶ … 自己研鑽を積む（外部研修 校内OJT 研究会活動等）  
全市SD（スキルアップデー）【毎月第4金曜日 6校時カット】

研究会主催研修に参加したり、イントラの研修動画を視聴したりし、自己研鑽に取り組む

## ②高まりのある学習集団の形成

### ○ 学習規律の明確化・共通化と徹底

- ・学習ルールの徹底（授業中の言葉づかい、姿勢、整理整頓等）
- ・構造化された授業（めあて～展開～まとめ・振り返り）
- ・板書ルールの統一（「めあて」「まとめ」カード、色使いのきまり等）
- ・ユニバーサルデザインの視点に立った教室経営

- 「学ぶことはあたりまえ」の意識と姿勢
- 『やはり、子どもは「授業」で育てる』



## ③自主的な学習習慣、基礎・基本の学力の定着【学力向上部】

- レディネスをもとに子どもの実態を把握し、粘り強い指導を継続する
- 帯学習の取組、家庭学習の在り方
- デジタルドリル「ドリルパーク」の活用

## ④「教育DXビジョン 2nd GIGA」に基づいた教育の情報化の充実

- ICT機器を活用し、情報活用能力の向上、**主体的**な学習を目指した取組
- GIGAスクール構想のさらなる推進による協働的な学びと個別最適な学びの実現
- デジタル・シティズンシップ教育の推進

## （3）人権教育の充実 ～豊かな人権感覚を育むために～

### ①同和教育

- 一人一人の人権を大切に、同和問題の解決に向けて**主体的**に行動できる実践的態度と能力を育てる。
- 全ての児童の学力の向上を図る。
- 研修を通して、教職員自ら鋭い人権感覚を身につける。
- 同和問題指導・素地指導の充実を図る。
- 保護者啓発の充実を図る。

### ②総合育成支援教育

- 障害についての理解を深め、すべての児童に、人を人として尊敬し他者にやさしくできる力を育てる。
- 育成学級と普通学級との交流を通して、すべての児童が障害についての理解を深め、互いに触れ合い支え合うようにする。

### ③外国人教育

- 民族や国籍の違いや文化の多様性を認め、相互の主体性を尊重し、共に生きる国際協調の精神を養い、実践的態度を育てる。
- 外国人児童及び外国にルーツをもつ児童ひとり一人の自己実現に向け、学力の向上と個性の伸長を図る。
- 外国人児童及び外国にルーツをもつ児童の保護者との連携と信頼関係の構築を図る。

### ④ジェンダー教育

- 性差を理解しつつ、性別に捉われることなく、ともに尊重、協力し合いながら、自分らしく生きることのできる力を育てる。

## ⑤新たな人権課題

- 子どもを取り巻く「新たな人権課題」については、学びを深め、必要に応じて取組や研修で取り上げていくものとする。
  - ・ デジタル社会・インターネットに関わる人権課題
  - ・ いじめ・不登校・学校生活における人権課題
  - ・ 家庭・生活環境に起因する人権課題
  - ・ 障害や特別な教育的ニーズに関わる人権課題
  - ・ 外国にルーツをもつ子ども・文化的背景の多様性に関わる人権課題
  - ・ 多様な個性・アイデンティティに関わる人権課題

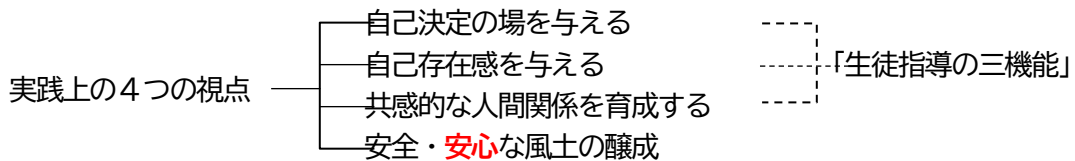
## (4) 「あたたかい指導」の充実

### ①発達支持的生徒指導の推進

- 目指すべき子どもの姿
  - \* 自己指導能力を育てる  
(自ら考え、判断・行動をする力)
  - \* 自己肯定感を育てる  
(自分には良さや可能性があるという意識)
  - \* 自己有用感を育てる  
(自分は人の役に立つ存在であるという意識)

発達支持的生徒指導とは、子ども自身が自発的・主体的に自らを成長・発達させる過程を支える生徒指導の在り方  
～日頃からの心温まる接し方の積み重ね～  
挨拶・声かけ・励まし・賞賛・対話

- 「大枝版 生徒指導の三機能チェックシート」を活用し、学習指導と生徒指導が一体となる授業や学級経営を推進



### ②総合育成支援教育の推進

- LD等通級指導教室との連携を深めながら、支援の必要とする子どもへの指導体制の充実を図るとともに、あたたかい支援ができる学年、学級作りを進める。

### ③指導に関して

- 一人ひとりが安心して楽しく過ごせ、学習に向かう学級・学校づくり（心理的安全性の向上）  
(誰もが、「今日も学校に来てよかった」「学校が楽しい」と思える学級・学校)
- 厳しくもあたたかい指導の実践
  - ・ 子どもの置かれている背景（生育状況や家庭環境）にまで目を向け、思いを馳せ、子どもの立場に立った児童理解を心がける。
    - 「こんなに忘れ物をするなんて！」→「ものを揃えられない背景が家庭にあるのでは？」
    - ・ まずは、話を十分聞いたうえで共感。「なるほど、そういう思い（理由）だったのだね。」
    - ・ 次に、心に染み入り届く指導。言い聞かせるのではなく、子ども自らが価値を理解できる指導
      - 「●●することはダメだ！」→「●●することはダメだと先生は思うけれど、あなたはどうか？」
- 「叱る」指導よりも「ほめて育てる」指導
  - ・ できない子に「●●しなさい！」と言うよりも、できている子に「●●できて素敵！」
- 日常観察を積極的に行い、心情や行動を多面的にとらえて、見逃しのない観察、手遅れのない対策をとり、根気強く心の通った指導を行うことで子どもや保護者との信頼関係を深める。
- 信頼関係を築いたうえで、行うべき指導は教職員全体が共通理解のもと徹底して行う。
- ただし、威圧感を与える感情的な指導（行き過ぎた指導）は行わない。
- オフィシャルな言葉づかいの徹底（授業中はもちろん日常生活も 教職員も児童も）

- 有事の際の対応は、素早く丁寧に誠意をもって行う。

## (5) 健康教育の充実

- 子どもたちが**主体的**に自らの健康を守り、保つことを目指す。【保健部を中心に】
- 子どもたちが**主体的**に自身の体力向上を意識し、行動することを目指す。【体育部を中心に】
- 子どもたちが**主体的**に自身の安全を意識し、行動することを目指す。【安全部を中心に】
- 子どもたちが**主体的**に自身の食生活を意識し、行動することを目指す。【給食部を中心に】
- 安全な環境を保ち、怪我、事故の未然防止と指導の徹底を図るようにする。

子どもが「**主役**」、子どもを「**主役**」に！

## (6) 特別活動の活性化

- 子どもが**楽しく主体的**に動き、自己肯定感や自己有用感を育む特別活動の充実
- 高学年の「活躍」の“見える化”、低学年からの「あこがれ」と「感謝」
- 活動のねらいとつきたい資質能力を明確にし、限りのある時数で最大限に工夫

## (7) 開かれた学校づくり

- 教育活動（ねらいや内容）の積極的な提示
- 学校運営協議会での熟議や参画による学校運営の充実
- 学校評価（子どもはぐくみアンケート）の効果的な活用
- 学校ホームページの充実
- 地域の資源「ひと（人材）・もの（施設・自然）・とき（歴史・文化）」を効果的に活用
- 架け橋プログラム（幼保小連携）・小中一貫教育（小中連携）の推進・充実

# 6 働き方改革の推進

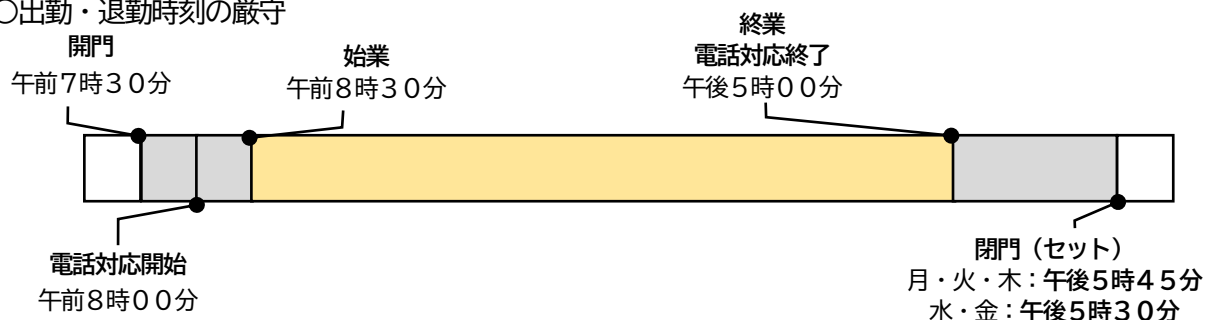
## (1) 熱意と働きがい、**安心**と元気のある職場

- 教職員が、やりがいを感じ、心身ともに明るく元気で子どもに向かう。
- 日々の生活や教職人生が楽しく幸せである働き方を目指す。
- 高い同僚性のある安心であたたかい職場にする。
  - ・お互いが得意なところを生かし、助け合い、教え合う。
  - ・お互いの事情や都合を理解し合い、助け合い、支え合う。
  - ・様々な職種の職員の仕事を互いに尊重し合い、感謝し合う
- 自己研鑽に努め、お互いが切磋琢磨するプロとしての教育集団を目指す

「高い同僚性」のための  
5つのキーワード  
信頼  
協働  
対話  
振り返りと共有  
相互支援

## (2) 時間を意識した働き方

- ゴールイメージと見通しをもち、計画性のある働き方
- 計画・実践は「足し算」でなくゴールからの「引き算」で
- 出勤・退勤時刻の厳守



(3) 業務の効率化

- 校務DXの推進
- 校務支援員の活用
- 共有フォルダの整理・再構築

(4) 業務の精選・適正化

- 見通しのある年間行事計画・年間研修計画の作成
- PDCAサイクルを生かしての取組の改善
- 学級だより・学年だよりの簡素化（情報発信はできる限り学校HPで）

(5) 放課後の時間設定

	月 終礼 15:45~16:00	火 L通勤日	水 SC SSW L通 勤務日	木	金
時間	16:00~	15:45~16:30	随時(30分間)	15:00~ 16:00	
第1週	学年部会 (低・中・高・ひ)  学年会	若手研	ケース会 (必要に応じて)	職員会議 /研修会	各自裁量の時間
第2週		見守る指導部会(生指・総育)			
第3週		企画委員会/学年主任会 (必要に応じて)			
第4週		(予備)			
第5週		(予備)			全市SD(6校時カット)
					各自裁量の時間

7 今年度の重点

子どもが「**主役**」、子どもを「**主役**」に!

「**楽しい学校** ~子どもも大人も安心して力を発揮できる居場所づくり~」

- 教職員が幸せで健康で、毎日、元気に楽しく子どもと接することが最優先!
- 授業も取組も、アイデアいっぱい楽しみながらクリエイティブに!
- あたたかい指導のもと、子どもの笑顔や成長をみんなで喜べる職員室

「**学力向上** ~資質・能力を基盤にすべての教科で~」

- 「子どもが主体的に学ぶ」楽しい授業への意識改革と授業改善
- すべての児童に、資質・能力と基礎・基本の学力を粘り強く身につけ、積み上げる
- TeachからCoach、Side-by-side Supportへ  
(教える) (支える) (伴走する)